



みんなで作る

子供が安心して学ぶことができる学校

4つの力でのびる子を育む

- ア 人を大切にする力
- イ 自分の考えをもつ力
- ウ 自分を表現する力
- エ 挑戦する力

# さんじょう

## ぼくが捨てますよ

— 聞こえたら 助ける

さりげない優しさがある学校 —

校長 在家 正行

### ぼくが捨てますよ

12時55分。「これから清掃を始めます」。校内放送のアナウンスの後、全校の子供たちは一礼をして掃除を始めます。

1月末の掃除の時間のことです。校内を回っていた私は、1年生教室前の廊下に濡れて小さく丸まったティッシュが落ちているのに気が付きました。私はそれを拾ってごみ箱に捨てようとしたのですがごみ箱がどこにあるのか分かりません。

「近くに、ごみ箱はないかなあ」

と、廊下で掃除をしていた低学年の子供たちに聞くと、

「あっちです」

と、指差して教えてくれました。私は、教えてもらったところへ行ってみたのですが、見付けられませんでした。私が「困ったなあ」とつぶやきながら立っていると、

「ぼくが捨てますよ」

と、6年生のMさんが、私の手のひらに載せられていたティッシュをさっと取って行きました。そのさりげない行為がとても爽やかで美しかった。

「ありがとう」

私は、ごみを捨ててもらったことも嬉しかったのですが、私の声を聞いて助けてくれた優しさが嬉しかった。

### 届けられた帽子

学校では、毎日、嬉しいことがあります。

今週初めの朝。教頭先生が、どこかの小学校へ電話を掛けた後、紙袋に帽子を入れていました。

「どうしたのですか」

私が教頭先生に尋ねると、

「C小学校の子供の帽子を送るのです。フラットの公園に落ちていたのをKさんが拾って届けてくれたのです」

と教えてくれました。先ほど教頭先生が掛けていた電話は、C小学校へ帽子を送る連絡だったのです。

公園に落ちていた帽子を見付けて、その場にいない持ち主の声を心の耳で聞いて拾い届けたKさん。そして、持ち主とKさんの思いを心の耳で聞いた教頭先生。

学校では、こんな素敵な物語が、たくさん聞こえてきます。

### 聞こえたら 助ける

「困っているの」「助けて」の声が聞こえたら助ける。三条では、そんなさりげない優しさの物語が、今、学校の中で、まちの中で、毎日生まれています。



さりげない優しさの物語のつくり手とともに